

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北陸)	◎	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・2回の3連休は天候に恵まれなかったものの、月を通してみると来客数は復調している。
	◎	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・3年ぶりに当地域で祭りやイベント、スポーツ大会が開催され、国内の個人客、団体客共に増加傾向が続いており、稼働率は新型コロナウイルス感染症発生前の85%にまで回復している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・売上は新型コロナウイルス感染症発生前と同じ水準に戻ってきたが、1人当たりの買上単価は相変わらず低い。仕入価格や電気代などの経費が上がっているため、経営自体は変わらず厳しい状況である。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	お客様の様子	・年末に向けた商材の購入が活発になってきたようにみえる。前年まで取りやめになっていた行事も、徐々に開催されてきている様子である。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	お客様の様子	・観光客の動きが増えている。
	○	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・高額品の動きは変わらず堅調で、物産展などへの来客数も多い。また、2度の3連休に他県からの観光客が多数あり、街中のイベントも徐々に開催されているため、街の中心部への人の流入が活発になっている。
	○	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・富裕層向けラグジュアリーブランドの期間限定販売や食品物産催事など、客が興味のある企画や商品には反応があり、大きく売上を伸ばしている。また、限定的ではあるが、アパレル部門では旅行やセレモニー需要により、新型コロナウイルス感染症発生前の2019年の実績を超えるブランドが出始めている。
	○	コンビニ（店長）	単価の動き	・夏場から現在まで売上が増加している。前月同様1人当たりの買上単価が増加したため、それに伴い利益も増えている。商品価格の上昇により売上額は増加した一方で、値上げによって来客数が減少したなどの変化はない。この状態が数か月続いており、景気の良しあしで言えば、値上げ後も来客数の減少がなかったのだから良くなっていると考えられる。ただし、景気が良くなっているから値上げしても商品が売れているというには違和感がある。
	○	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続きそうであるが、少しずつ回復しているようにみえる。
	○	家電量販店（本部）	単価の動き	・季節関連商材や大型商材が健闘しており、やや好調に推移している。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の発表があり来客数が増えている。車の入荷も少しずつではあるが増えており、売上が3か月前よりもやや良くなってきている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・来客数や販売量の動向から、日常生活は新型コロナウイルス感染症発生前の生活スタイルに戻りつつあるとみている。一方で、非日常型の商材や晴れの日向けの商材などの回復はまだ低調である。この先は年末年始などを迎えて季節行事が増えるため、回復してくることを期待している。
	○	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症に対する国の対応が緩和されたため自粛の雰囲気もなく、制限がない状況のため、消費者の動きが活発化している。
	○	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年比で171%、宿泊人数は168%、宿泊単価は99%と前年よりは改善されているが、2019年との比較では72%でまだ苦しい状況が続いている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前年同月が悪かったこともあり、売上は前年よりは回復している。しかし、新型コロナウイルス感染症第7波のために、回復状況は新型コロナウイルス感染症発生前の半分程度で、戻りが悪い。
○	タクシー運転手	来客数の動き	・今月中旬頃から、貸切りの仕事が多量に入ってきている。	
○	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・新商品が発売され予約が多かったことに加え、思っていた以上に新商品の納入数が多い状況である。	

□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地の大きな祭りや大型商業施設の周年イベント、コスプレイベントなど、秋の催事は相変わらずにぎわいをみせているが、客の周遊や売上への影響が少ないなどの課題も多い。飲食店の団体利用はまだこれからの状態であり、プレミアム付食事券の期間延長は喜ばしいが、飲食業以外の店舗への支援は乏しいと考える。
□	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・日常使いの商品販売は通常の状態だが、ギフト需要の動きが非常に悪いため、その分の落ち込みが販売量に影響していると考ええる。
□	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・連休ごとの台風の影響でやや苦戦したが、遠出ができない分、ファミリー層を中心に来客数はまずまずであった。一方で平日の年配層の来店が少ない。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいとみているが、商品価格の高騰も要因の可能性はある。買上品目が少なく目的商品のみ購入が目立ち、価格を気にする動きが出ている。外出需要も増加傾向にはあるもののまだ少なく、バッグなどの動きは低調である。
□	スーパー（統括）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症発生前の状態に戻つつあるものの、物価上昇や電気料金等コストの増加により、以前と大きく変わらない。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年より回復傾向にあるものの、1人当たりの買上単価が低下している。
□	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大という1つのきっかけで、金を掛ける価値観が変わったようにみえる。
□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年比10%程度の来客数の落ち込みが続いている。
□	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・自動車販売業においては、生産が回復せず長納期状態が続いている。9月から増産できる予定であったが、先日の台風被害の影響もあり遅れが続いており、販売の大きな支障となっている。
□	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・9月は半期決算のため集客増加を狙い販促も多く実施したが、来客数は前年割れた。前月の反動による販売減少を大きく見込んでいたがそれほど影響はなく、市況全体の変化は少ないと考える。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月後半は1～2人の来店で開店休業となったが、連休前まではとても良かったので何とかかなり、ホッとしている。皆、旅行や外食する機会が増えたと聞いている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染はまだ収まらない。一時よりは減少傾向にあるが、昼夜にわたり外出を控える傾向である。ただし、観光客の数は週末を中心に多くなっている。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に、引き続き新規契約者数が前年と同様の獲得数で推移している。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・景気の影響だけとはいえないが、今春以降、新規契約者数が伸び悩んでいる。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・木材や建築資材の価格高騰だけでなく食品などの価格高騰もあり、客が良いマインドを持つことができない。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数も高止まりといった状態で、イベントやランチの人出は回復しているようだが、今一つ活気がない。地方ではコンサートも大入りのようだが県外客も多いが、当商店街でその恩恵を受けるまでには回復していない。
▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・販売量や来客数の減少はずっと続いているが、今月は特に来客数の減少が大きかった。来月以降も続く、値上がりの影響があると考ええる。
▲	スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・価格改定が続き、消費者がディスカウントストアへと流れている状況である。来客数の減少がじわじわと続いている。
▲	スーパー（店舗管理）	販売量の動き	・来客数や買上点数は減少しており、買上単価は何とか現状維持しているが、非常に厳しい状況である。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価上昇が続き、支出は生活を維持するために慎重にならざるを得なくなっている。

	▲	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・2回あった3連休だけにぎわいがあったが、その他の週末は新型コロナウイルス感染症発生前と比べると70%ほどの集客しがなく、非常に厳しい状況である。
	▲	旅行代理店(従業員)	それ以外	・3か月前は団体の問合せがそれなりにあったが、新型コロナウイルスオミクロン株のまん延で、秋の団体旅行は半分以上キャンセルとなっている。現在、新型コロナウイルスの感染状況は落ち着きつつあるが、秋に団体旅行をするにはもはや準備が間に合わないため、団体予約が復活することはないと考える。
	▲	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・行動制限はないものの、観光業において客の動きは依然として鈍く、諸物価の上昇もあり、3か月前と比べるとやや悪くなっている。
	▲	競輪場(職員)	単価の動き	・競輪の車券売上額がやや減少しているように見える。
	▲	その他レジャー施設[スポーツクラブ](総支配人)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているが、自分が感染するリスクを皆意識しており、新規入会者が増えない。また、経費が上昇した分の吸収ができそうにないため苦しい運営になっている。
	▲	美容室(経営者)	来客数の動き	・従業員の家族が新型コロナウイルスに感染し、やむを得ず本人が休職するケースが多くあり、店の営業にも影響している。
	▲	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・客の検討期間が長くなっている。また、検討後のキャンセルも増えており、契約率が悪くなっている。
	×	スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数が減少している。来店頻度が下がっている様子である。
	×	住関連専門店(役員)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症への意識は少し和らいできた感じが見受けられるが、生活用品の価格高騰やその他商品の値上げが大きく影響している。
	×	その他専門店[酒](経営者)	販売量の動き	・10月から酒類が値上がりするため、その前にまとめて仕入れたが、以前の感覚から買い過ぎてしまうという悪い判断になり、これをどう販売するか思案している。
	×	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・客は様子見で、すぐに結論を出すことはない。物価の上昇や金利、地価など今後の変動を見極めるために時間を掛けており、商談も長引いている。
	×	住宅販売会社(営業)	販売量の動き	・受注量が前年比で4割減少している。客の買い控えが顕著になってきたように見える。
企業 動向 関連  (北陸)	◎	—	—	—
	○	税理士(所長)	取引先の様子	・取引先の様子を見ると、中国におけるゼロコロナ政策などの新型コロナウイルス感染症の影響により物流が滞った時期はほぼ脱出したようである。各企業が調達ルートを確認し、生産も徐々に回復している。感染症発生前までにはまだ届かないという経営者が多いが、おおむね日常の仕事はできるようになってきており、全ての業種において、感染症発生前の状態に近づいてきたという印象で、少し明るい兆しがみえる。
	□	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注や売上は変わらずに推移している。
	□	プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・半導体不足やロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う供給制約の継続、原材料価格の高止まりの影響は大きく、引き続き厳しい状況が続いている。
	□	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は堅調に推移しているものの、需要は一旦落ち着いたようにみえる。
	□	輸送業(管理会計担当)	受注価格や販売価格の動き	・物量は若干回復傾向にあるが、運賃改定が思うように進まず、収益の回復が遅れている。
	□	通信業(営業)	受注量や販売量の動き	・半導体不足の影響により納品が遅延している状況ではあるが、3か月前と受注量に変化はなく上期に引き続き好調である。
	□	金融業(融資担当)	取引先の様子	・取引先の第2四半期の業績予想が、第1四半期から横ばいで推移している。前年と比べて改善傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症発生前との比較ではまだ回復していない。
	□	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者から、一般個人客からの問合せが少なくなってきたという話を聞いている。

	□	司法書士	取引先の様子	・親族や従業員への事業承継関連の依頼が多かったことはプラスだと評価している。しかし、この数年の新型コロナウイルス感染症の影響による業績悪化のため、事業承継の過程で債務整理等で苦労したという話も多い。
	▲	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・表面上の受注や販売は堅調に推移しているが、原材料価格を始めとした様々なコストアップによる価格転嫁で値上げた商品が苦戦する一方、価格転嫁していない商品の受注や販売は増加する傾向となっており、収益性は著しく低下している。
	▲	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・受注は引き続き堅調であるが、電力料金を含めた原材料価格の高騰に拍車がかかっており、収益環境が一層厳しくなっている。
	▲	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ウクライナ情勢や円安などにより、原材料や燃料の価格が高騰しているが、発注者の設計価格に反映されるまでに時間差があり、その間の採算性が悪くなっている。
	×	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・一部に販売が堅調な取引先はあるものの、全般的には3か月前又は前月と比較して、販売量が落ちてきている。
雇用 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	新聞社「求人広告」(営業)	周辺企業の様子	・各種イベントが復活し、企業の活動が活発になっている。
	□	人材派遣会社(役員)	求人数の動き	・求人数は高止まりの状態、更に増加したり減少したりはしていない。
	□	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・求人数が余り変わらない。
	□	新聞社「求人広告」(担当者)	周辺企業の様子	・事業告知などの営業広告、それ以外の求人や不動産などの広告も、申込件数はほぼ横ばいで大きな変化はみられない。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が求職者数を上回る状況は継続しているが、特段の変化はみられない。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は前年と比べて増加が続いている。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・民間の求人数が増加しておらず、好転の兆しがまだみられない。
	▲	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・燃料費の高騰で、企業の動きが少し鈍くなっている。
	×	—	—	—